

第7回瀬谷区地域福祉保健計画策定懇談会 議事録

日時	平成27年12月17日(木) 午後2時から4時まで
場所	区役所5階大会議室
出席者	(敬称略) 名和田、岡田、辻村、山口、諸橋、奥津、網代、清水、福田、森谷、高橋、土居、岸本、杉野、 笹生、米倉、大塚、村島、中野、宮原、瀧澤、里見、板坂
議事録	<p>1(1) 第6回地域福祉保健計画策定懇談会の振り返り(資料1-1、1-2)</p> <p>◆第6回地域福祉保健計画策定懇談会の議事要旨(資料1-1)について、事務局から説明した。</p> <p>(2) 第2回地区別計画推進懇談会報告(資料2)</p> <p>◆第2回地区別計画推進懇談会報告(資料2)について、事務局及び区社会福祉協議会(以下「区社協」と表記)から説明した。</p> <p><u>事務局(区社協)</u></p> <p>◆11月20日(金)14:00~16:20 地域の方75名と支援チーム44名が参加。1地区あたり10分を目安に発表していただいた。講師の先生から地区ごとにコメントをいただき、最後に、「瀬谷区は地区別計画については18区の中でも進んでいる」と総括していただいた。さらに、地区別計画手引き書で示したPDCAサイクルについても「地区別計画の取組が進んでいる瀬谷区だからできる手引き書だ」とふれていただいた。また、自治会町内会の地域福祉保健計画への理解が進んでいて、地区の取組としても地区別計画は定着しているとお話いただいた。</p> <p>計画の修正を11月30日までとして、本日の資料を作成した。さらに2月27日のシンポジウムについて紹介し、最後に区長から閉会のあいさつをいただいた。</p> <p>◆推進懇談会のアンケート結果(筆記式)について、事務局(区社協)から説明した。</p> <p><u>事務局(区社協)</u></p> <p>ア 計画を進めるにあたっての留意点・不安な点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もっと区民に浸透していかなくてはいけない。地域の皆さんへの啓発活動が大事。 ・PDCAサイクルのような途中での振り返りが大事になってくる。 ・活動費についての記述。 <p>イ 事務局・区役所・区社協・地域ケアプラザへの要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治会の加入率についても是非サポートして欲しい。 ・地区別計画を進めるにあたり重層的な人材と捉えている。 ・支援チームの協力についての記述。 ・財政的支援についての記述。 <p>ウ 当日の懇談会の感想、今後の懇談会について</p>

- ・「有意義」という感想が多数。
- ・これからどのような形で実施していくのかアドバイスをもらいたい。
- ・もっと具体的に説明できる時間が欲しい。

エ 今後の懇談会のあり方についての希望

- ・振り返りの懇談会を是非開催してもらいたい。
- ・より内容の深い発表を期待する。
- ・失敗談を聞きたい。
- ・5年間の計画を意識し、反省を踏まえながらステップアップしていけるように。

オ 計画の課題・展望

- ・各地区の目標に子どもに関する目標が多くなった。
- ・人材に関しては、「若手の育成」、「担い手の高齢化に対しての手だて」が必要。
- ・支援チームへの期待の記述。
- ・地域の中で、自治会町内会・民生委員・地区社協が協力しなければ出来上がらなかったし、今後も協力が必要。
- ・「地域福祉保健計画」という言葉が堅いと記述。

- ◆第6回策定懇談会と第2回地区別計画懇談会の報告をしていただいた。何か指摘はあるか。無いようなので、議事2に進める。

2 第3期地域福祉保健計画最終案について（資料3-1、3-2、別冊（計画案））

（1）全域計画

（2）地区別計画

- ◆全域計画と地区別計画が盛り込まれたものが最終版としてお手元に配布されている。それに基づいて事務局から説明をいただき確認していきたい。

事務局

- ◆第3期地域福祉保健計画最終案について、前回10月1日開催の第6回懇談会以降に変更追加した部分を中心に、本日配布の別冊（計画案）と事前配布資料3-1、3-2で説明した。
- ◆副題は、区民の皆様から多く支持を集めた「暮らしやすいまちづくりの計画」と決定し、表紙にもその旨記載させていただいた。今回「コラム記事」を追加した。別冊冊子の目次の右下、コラム①～⑤と5つのコラム記事を入れた。コラム記事については、後程一つずつ説明。
- ◆第6回懇談会での意見の対応表を説明した（資料3-1参照 説明省略）。
- ◆続いて、今年度に行われた区民意識調査の結果について報告し（資料3-2参照 説明省略）、今後の地域福祉保健計画の推進に役立てていきたい旨説明した。

事務局

- ◆平成27年度に行われた区民意識調査については、所管課で分析中。調査結果は、年明け以降、所管課から区民へ説明する予定。
- ◆調査以外に追加した箇所について、以下のとおり説明。
 - ・（別冊34頁）地区別計画策定の推進にあたっての時に使用した「暮らしやすいまちづくり」

のイメージ図を掲載。

- ・(別冊 35 頁) 地区別計画の取組の柱について、11 月 20 日最終的に地区別計画としてあがってきた最終案の内容に合わせて修正。
- ・次頁以降は、各地区別計画の現時点の最終版。後程目を通していただきたい。
- ・(別冊 38 頁) 第 5 章 計画をささえる関係機関が目指すものとして、(1)「区社会福祉協議会」が担う役割や重点的に取り組んでいきたい取組等を記載。
- ・(別冊 40～41 頁) (2) 地域ケアプラザの計画で、地域ケアプラザについては、担当地区の施設として運営しているが、区全体で協力して取組を進めていけるような取組をケアプラザ間で調整していただいた結果を「取組の姿勢」としてまとめた。今後、各年度、各ケアプラザ間で調整の上、連携して取り組んでいきたい。このあたりの具体的取組の内容は、区社協も含めて各年度の事業計画の中に反映されることになる。
- ・(別冊 42 頁) 第 6 章 計画の推進と評価について、計画の推進をイメージする図を作り替えた。右側が地区別計画の推進イメージで、既に配布している「策定推進にあたって」から抽出した。左側が全域計画の推進イメージで、概ね 5～6 月に庁内で議論した後、推進懇談会等にはかりながら事業計画を確定しながら 11 月にシンポジウムを開催し 2～3 月頃に振り返りの懇談会や推進会議を開催し、次年度に引き継いでいく形を示したものである。
- ・(別冊 43 頁) 第 3 期を通じて 5 か年の PDCA サイクルを図化したものである。3 年目に「暮らしや地域に関する基礎調査」を実施、また、同じく 3 年目に地区別計画の中間振り返り等、全域計画の方に振り返りとして反映させるように検討している。その後 4～5 年目には、次期計画の策定に向け検討の時期に入る。
- ・(別冊 46 頁) 第 7 章 参考資料で、資料 1 は、第 3 期策定のプロセスについて、25 年度に実施した調査や、昨年から今年にかけて開催した懇談会やヒアリング等を掲載。
- ・(別冊 48 頁) 資料 2 は、今回の策定に関わっていただいたメンバーの名簿。
- ・(別冊 49 頁以降) 資料 3 は、前回の懇談会でお願いしたメンバーの皆様からいただいたコメントを掲載。名簿順、敬称略で掲載しているのでご確認いただきたい。
- ・(別冊 51 頁) 資料 4 は、昨年発行した「地区別計画を策定するにあたって」約 20 ページあるが、若干時点修正を加えて資料として付けたいと思っている。
- ・(別冊 52 頁) 資料 5 は、瀬谷区の基礎データ、時点修正も含めて作業中であるが、本日はイメージとして議論いただきたい。

【意見交換】

- ◆これに関する議論が本日のメインテーマであり、40 分以上時間がある。最後の機会なので意見、感想等を伺いたい。

懇談会というのは、合議体として結論を出す性質のものではないが、それは行政側の都合なので、推進に関わっている皆さんが大きな異論を持っている場合は聞きおくだけということはありませんので、ここで出た意見は必要ならフィードバックを行うが、かなり第 7 回まで綿密に議論が重ねられているので大きな異論が出ることはないだろう。調整が必要なことが出てきたら事務局の判断で必要とあれば相談しつつ修正を図りたい。そのようなものとして、今、ここ

で十分議論をいただきたい。

最初にシニアクラブ連合会から、今までは日程調整が合わず本日初めて出席していただくことになり非常に申し訳ないのですが、挨拶を含め最初にご発言願いたい。

◆本年4月に会の名称を「老人クラブ」から「シニアクラブ」に変更した。区内に約4,000名の会員をかかえ、地域で高齢者が健康づくりと仲間づくりや奉仕活動等を中心に活動している団体で、これまでも地域福祉保健計画にはかなり関わりの深い団体だと理解して参加している。本日はお願いだが、資料の中で地域計画の2か所に「老人会」という名称で記載されているが、差し支えなかったら新しい「シニアクラブ」に変えていただくとシニアクラブのPR宣伝にも有効に働くのでよろしくをお願いします。

◆名称の件は、法律で「老人クラブ」となっているので、そこに関わらない部分では是非、シニアクラブに変えてください。「シニアクラブとして地域福祉に積極的に関わらなくては」と力強い言葉をいただき有難い。私も「全国老人クラブ連合会」で話をする等、横浜市でも関わっている。「老人クラブ」は法律上の名称だが、「シニアクラブ」の活動の柱の中に、友愛活動、社会奉仕活動があり、真摯に受け止めていただき活動していただけると「シニアクラブ」に期待されるものが大きいと日頃から思っていたので、今の発言を頼もしく聴かせていただいた。

◆(別冊1頁)「(1)地域福祉保健計画とは」の中程、「地域福祉保健計画とは、住民・事業者・公的機関～」と書いてあるが、この中の「住民」とは、住民個々の方々のことだが、例えば、自治会や連合等の団体と地区社協がこの中に加わって協働して取り組むことになるのではと感じる。ということは、表紙、裏表紙にも関わるが、この計画とは、そもそも誰が責任を持って立て、発表しその後、誰が責任を持つかがあいまいである。先程、1頁の◆4つ目を指摘したが、その上にある横浜市の計画について、区別の計画は「区が策定する」となっている。例えば、事務局とは、あくまでもまとめをした皆様となると、そこが本来、計画を出し今後も責任を持つと捉えてよいのか、根本的なところが問われる。裏表紙でも、計画の発行者は、瀬谷区役所でもよいが、福祉保健課や区社協や地域ケアプラザであるのなら、計画そのものの半分は地区別計画なので、地区社協が入ってもおかしくないのでは。説明願いたい。事務局としての立場と、この計画を策定し責任を持って推進していくのは誰なのかが不明である。

2点目、(別冊33頁)コラム⑤の中に、自治会町内会について委嘱委員のことに触れていただき素晴らしいが、この名前を出す場合、気を付けて出さないと、他の人が「私達はどうなのか」と言われる。私達地域では、そのようなことに非常に気をつけて取り組んでいる。例えば、横浜市の委嘱を受けている「環境事業推進委員」だったり、ここでは横浜市に限定されているが、国や市から委託の「防犯指導員」の方々を、「等」とまとめるのは簡単だが、どこまでどの基準で書くかはっきりしていただきたい。

3点目、(部冊36頁)は、地区別計画のひな型を示しているがいないのでは。最初の頁は、阿久和北部から順番の地区名一覧を載せて地区別計画にも頁を打てばよいと思われる。

事務局

1点目、おっしゃるとおり計画に位置づけの◆4つ目に「自治会町内会、連合自治会、地区社会福祉協議会等」を付け加える。表面と裏面は特に意識したわけではなく、発行元としてどこま

で書くかという問題もあるが、委員の皆様と自治会町内会、或いは連合自治会、地区社協までは書き込んだ方がよいかどうか等、事務局で検討したい。

2点目、(別冊 33 頁) 委嘱委員をはじめ全部の委員を載せると漏れがあると失礼かと、本日の会議に代表を出していただいている委嘱委員を書かせてもらった。ヘルスマイトは委嘱という形ではないのでどうするか議論している。民生委員児童委員協議会、保健活動推進委員会、青少年指導員、スポーツ推進委員等という線引きだが、我々内部の議論として全部入れるか、大きくりに漏れないように、「国や市から委嘱された委嘱委員が」とまとめるか、ご意見をいただきたい。

3点目、(部冊 36 頁) 地区別計画のひな形の頁は、最終的には両面見開きの冊子にする予定であるので削除する。

- ◆ひな型のフォーマットは最終的にはいらないので削除との答えだったが、最初のふたつの問題は、事務局では現状で考えているが皆様方の意見を伺いたいということ。策定主体に関する表記は、表紙の下部に策定主体で“横浜市”と書き、裏面に発行主体である「福祉保健課」等を書くのが横浜市の行政文書のスタイルである。地域福祉保健計画が始まった時から協調されてきた議論であるが、地域福祉保健計画は、法律上は行政計画だが、実際は市民と区民と地域の方々が協働して作り推進する計画だと謳われており、この会議の中でも了解されていることである。だからこそのご指摘であったのだろう。

この計画が法律上は行政計画であるが皆の計画だという事を表現するために表紙に地区社協と連合を表記する等、今までの行政文書のスタイルからすると異例ではあるが、地域福祉保健計画の実際を考えると必要な事ではないかとも思われる。皆様方の意見を伺いたい。

また、二つ目の指摘は、私も気になっていたが、ヘルスマイトは委嘱という形はとっていないが、地域で活動されている方々であり、この会議で仲間として一緒に議論をしている方を全部表記するというのはすっきりした考えである。それについても意見を伺いたい。これは、皆さんの区民としての気持ちなので是非、きたんのない意見をお願いしたい。

- ◆私も同意見で、区で委嘱している方全部をもうらし、どのようなことをやっているか参考資料か別紙でまとめてもらうとよい。私自身も全部の委員を把握していないし、担当委員も載っていないと疑問に思うといけないので、別紙に民生委員から始まり委嘱職を載せれば、そのような方も一緒に頑張ろうという気になるだろう。どのような委員が関係しているのか地元の方への周知にもなる。

- ◆そうなると、県の委嘱も国の委嘱もある。

- ◆私は、ヘルスマイトの会長をしている。区役所開催のセミナーを1年間受講してからでないとヘルスマイトになれないので、瀬谷区では会員は71名と少ない。ヘルスマイトは全国的なボランティアで、全国では16万人、横浜市で1,800人位いる。

「私達の健康は、私達の手で」をスローガンに、食育を通じ栄養・運動・休養のバランスのとれた健康づくりを地域に普及するためのボランティア活動を行っている。「健康横浜 21」においても、基本目標である「健康寿命を延ばす」ことを目指し、食生活を含めた生活習慣の改善を行動目標として取り組んでいる。

先日の瀬谷区のフェスティバルでアンケートを取ったところ、ヘルスマイトの認知度は、や

っと 40%という状況である。是非、「ヘルスマイト」という言葉を皆さんの頭の隅においていただき、是非、地区に 71 名いるヘルスマイトを利用、活用していただきたい。頑張っていくのでよろしくお願ひします。

- ◆他の自治体でもヘルスマイトの名はよく聞く。法律はないが国の制度でかつ、委嘱という形はとっていないが、委託事業をされているという関係にある。おそらく国兼市の委嘱的な委員を全部網羅すると、少なくとも裏表一枚の表になるが、この際、資料として載せるということもあるかとも思うが、この懇談会に参加されている委員を書くという 2 案がある。

引き続き、策定主体の表記をどうするかという問題と、委嘱委員をどこまで書くか、もう少し意見をいただきたい。

- ◆判断が難しいが、ヘルスマイトの話にあるように、確かに瀬谷フェスティバルではよく会っていたが、地域の中でどれだけ活躍されているかという認知度は低い。町内会や連合自治会の中の団体として入っているかは疑問である。私の承知している範囲では、ヘルスマイトがいるのは知っているが、地域の中でどのような活動をやっているのかはみえていない。

「消費生活推進員」や「家庭防災員」はそれなりに分かるが、ヘルスマイトは、昔は「食生活等改善等推進員」であり、現在、地区に 71 名いるとのことだが、自治会にもヘルスマイトは入っておらず認知度は低いと感じる。その様な意味でも、委嘱委員を全て掲載することはできない。また認知症キャラバンメイトも入って来るのかと考えてしまう。そうなるに際限がなくなり整理がつかなくなるので、一般的に自治会からお願いしている委員に留めるのがよいのかと思われる。

事務局

- ◆私共が「委嘱」という言葉にこだわってしまった。ヘルスマイトは浸透度が今一つというご意見もあったが、この会議にも参加していただいているので必須の委員ということで PR をしていく責務もあり掲載したい。

一方、今ご発言いただいた線引きの考え方は、区から自治会町内会に選出をお願いした委員を漏れがないようにあげ、別紙で活動の内容等を紹介する形にしたい。その他の横浜市以外の機関まで漏れがないようにというのは難しい。その様な形でいかがか。

- ◆事務局から今、提示された方針でよいか。

一同 ー了解ー

では、区の中で各課に照会するというようにする。

- ◆表紙の策定主体の表記はいかがでしょうか。

事務局

- ◆ご指摘いただいた点はそのとおりであり、例えば、本日、集まっていた皆様は瀬谷区で活動されている主要な団体で地域福祉保健計画の主な担い手の団体なので、もし、発行責任、あるいは推進母体になっていただければ、「策定懇談会」と「推進懇談会」の併記で皆さんを代表しているという取り方もできるかと思う。また、連合自治会町内会と地区社協だけで十分という見方もあるが、別の見方で懇談会の皆さんが代表しているとするのもよいと思う。その辺の意見をいただきたい。

◆表紙の下は、1行目に「策定推進懇談会」を書くということだが、それはこれまでもよくあるパターンのひとつである。これも区民の感じ方の問題なので意見をいただきたい。

平成27年とあり、「策定推進懇談会」となり、その下に「瀬谷区役所」「瀬谷区社会福祉協議会」でその下に「地域ケアプラザ」となる。この会としては、それが体制の感じ方であったと受け止めていただきたい。

事務局

◆表紙と後ろの表記と参考資料としてあげている策定懇談会の委員名簿の位置づけも少し変えて紹介したいので、事務局一任で任せていただきたい。

◆策定懇談会の名簿が後ろの方に付いているが、策定主体との関係で関連がわかりやすい形で編集していただく。今のことは大事な論点であった。計画書について他にあるか。

◆これを区民の皆さん全体に読んでいただくことになるのにおそらく概要版も出ると思うが、見やすさという点で2点気が付いたことがある。

平成27年度の瀬谷区民意識調査の結果や策定懇談会やヒアリングの意見が載せてあるが、計画を策定するにあたっての資料になっているということを最初に載せた方がわかりやすいのでは。突然、区民意識調査の結果が出てきたり、懇談会の意見が出てきたり、自分が何も知らない立場をイメージして読んだ場合、整理がされていないと感じる。概要版ではすっきりした形で出ると思うが、見やすさも考えてもらいたいと思った。

もうひとつ、(別冊38頁)第5章「計画をささえる関係機関が目指すもの」は、区社協と地域ケアプラザがどのようなことをやっているのかと並べて「第3期計画」がでてくるが、「このような機関と共に第3期計画をこのような計画で進めていこうとしている」という内容を一文入れてもらえると「また第3期計画が出てきた」という唐突感が消えると思う。表記の問題なので、ねばならないではないが、かなり見やすさやわかりやすさも書体も含めてこれから検討するのだろうが考えてもらえたらありがたい。

◆非常に綿密に読んでいただいた意見でありがたい。これがカラーになり、かなりデザイン化されるので見やすくなるだろう。

第5章「計画をささえる関係機関が目指すもの」については、一体的計画の推進機関である区社協についてもっと役割を明らかにした方がよいと私も感じた。ここは、区民にメッセージがよく伝わるような工夫を区社協も地域ケアプラザもしていただければという意見だと思う。

事務局

懇談会意見やヒアリング調査結果の記載方法について整理が必要との意見については、工夫したい。事務局としては、(別冊5頁)「計画策定の経過」に「ヒアリングや区民意識調査をベースにして作っています」と記載しているが、今、ご指摘いただいたようにもっと前出しでこれから出て来る区データ等が全部計画のベースになっているという工夫ができるなら工夫したい。

現在、業者にデザイン委託をしており、まだ未定稿だが大分見やすくなるのではないかとと思われる。(席上で回覧)このような形で進めていこうとしている。

指摘いただいた、共に進めている共同事務局の区社協は、本来ならば区社協と区の計画は一

体化しているのであえて外出しなくてもよいという議論もあるが、地域ケアプラザの計画も作っていただいた中、唐突感がないように表記の工夫をしたい。

- ◆地域福祉保健計画は、区社協の方が先行して行動計画を作られており先輩格である。その成果をあとから行政がこのような計画を作ってきて一体化したという経緯がある。その様な観点からも、区社協のところも堂々と「一緒にやっていきます」とメッセージを伝えていただきたい。

地域ケアプラザに関して5館が一緒にこのようなページを作ったことも画期的なことである。他区ではやっていない。昨日、都筑区の会議があったが、都筑区も地域ケアプラザが5館あるが、地域ケアプラザが合同で集まって計画を作る等、まだ思いもよらないことだと思う。その意味でもこのページは、非常に画期的なページになっている。ご意見も含めてよく伝わるようなページにしていきたい。

- ◆他にいかがか。

- ◆この冊子は何部刷ってどこに配る予定か。第2期ではどのように配布したのか伺いたい。

事務局

- ◆デザイナーと印刷の予算の関係もあるが、おそらく本冊子は110頁程度になるので2,000～3,000刷り、主要な活動団体の代表の方に配る。概要版も千単位で刷り、皆さんの目に触れるようにしたい。

- ◆記載いただいている内容について2点ほど、気が付いた点を述べる。

(別冊18頁)コラム③ 真ん中の下「日頃の顔の見える関係づくりから」について、「災害発生時の支え合い、助け合い等」とあるが、「顔の見える関係」については「災害時の助け合いへ」ということになっているので、ここが、支え合い・助け合いとだぶっているのかと感じた。

(別冊38頁)社会福祉協議会の事業についてふれているが、原稿を作ったのがずいぶん前だったのかと思われる。2「重点的な取組1」第3期福祉保健計画策定推進とあり、その1行目、「支援チームの一員として計画策定支援と推進を行います」となっているが、「策定支援を行っていただいた」という過去形にし、「今後も推進を行っていく」とした方がよい。

事務局

- ◆そのようにします。区社協の中身は少し議論をしたい。

先ほどの意見もあったが、区社協と地域ケアプラザの目指す姿の前に少しストーリーが繋がる様な工夫をしたい。

- ◆第5章「計画をささえる関係機関のめざすところ」は、少しリード文を入れることでだいぶ読みやすくなりそうである。この部分はかなり画期的で他の区計画ではこのようなものはないので、その意味では皆、初体験で読むページとなるので、リード文を入れるとよいかもかもしれない。

私の感想は、巻頭にメッセージが書いてあるように、地区別計画がまた進化すると非常に驚きを持って報告している。

自治会町内会の地域福祉保健計画への理解が非常に進み、懇談会でも3人の連合会長に来ていただき、そこからも自治会町内会が瀬谷区の福祉保健計画の推進に関わっていく姿勢が示されていて素晴らしいと感じ、その二つのことをメッセージに書いた。

他は細かい話しだが、資料編の中に「地区別計画の策定にあたって」というガイドラインの手引き書が20頁に渡る資料があえて掲載されていることに歓迎している。この手引きは他区ではやっていないことで、瀬谷区で充分資料的価値があるものだし、横浜市全体のためでもあるので予算があれば是非入れていただきたい。

- ◆全体として、だいぶまとまってきているという印象がある。全体の文章とコラムに関して、コラムは全体の文章より少し軟らかくしていただきたい。例えば空き家のことも法律の変更だけでなく、もうひとつ身近に引き付けた1～2行が欲しい。

自治会町内会の活性化をコラムに入れていただけて非常に良いが、これは大事でこの会議では何度も議論が出て計画を推進するにあたり自治組織、自治会町内会との繋がりが大事だとわかっていることなので、もう一步書き込めないか。ぜいたくな注文だが、コラムについて全体の書き方とは違ったほっとするような身近に感じられる書き方で1～2行付け加わると素晴らしい。

事務局

- ◆珈琲ブレイク的な感じで書きたい。

- ◆今の点は行政が最も苦手とするところでもあるが、是非、共同事務局である区社協や地域ケアプラザの方の知恵をいただきコラムが珈琲ブレイク的なものになるとよい。

また、自治会町内会の活性化も、コラム的な珈琲ブレイクという以上に中身的にもう少し考えられないかという指摘だった。私ももう少し書きたいという気がしているので是非工夫していただきたい。私が考えているのは、自治会町内会加入率低下への対処法には決め手がないが、苦勞して加入をしてもらおう努力をしているが増えない現実がある。そこは、たぶん基本に立ち戻り地道な活動をしていくということなのではないかと個人的に思っている。そうすると、「地域福祉保健計画に携わる」ということは、最もよいやり方で、自治会町内会が地域住民の生活全ての基本的なことをやっているという姿を示していくことが決め手というより長期的にはよく効いてくるだろうと考えている。そのような観点から地域福祉保健計画に関わることにより、自治会町内会が改めて地域住民の信頼を増していくという内容を1～2行書いていただけるとよいと思う。

- ◆このような計画を皆が作るが果たして誰が読んでくれるのか。一番の問題がそこにある。

今、自治会町内会の話がでたが、最低限、自治会町内会で自分達も一緒に作ったという意識の基で、これから先、自治会町内会でこれを使っていただけるようにするにはどうしたらよいかがとても大事になってくる。

これだけ皆で頑張っ作って来て誰の為に作ったのか、これは区民の為に作ったものである。そして、区民の一番身近なところは自治会町内会である。その自治会町内会がこれをしっかり意識して読むなり見るなり活用するなりしないと絵に描いた餅になってしまう。今、どこでも、横浜市でもかなり立派な計画書を作っているが、果たしてそのような計画書がどこまで皆さんの目に届いているか、区役所は、そこをいつも気にしながら作る必要がある。今回は特に自治会町内会の成果が多く言われているので、是非、どのようにしたら自治会町内会にキチンと収まるかその辺を皆で工夫をしていかななくてはいけないと思っている。

◆もう、計画をできた後の実践の話になり、大変前向きな発言である。自治会町内会で「内容を知る会」等という勉強会のような総会と連動させる等、いろいろ考えられる素晴らしい指摘である。他にいかがか。よろしいでしょうか。

それでは、なごり惜しい気もするが、本日は、多くの意見をいただいたので事務局も楽しく頭を悩ます時間ができただろう。是非、意見を踏まえてよりよい計画に仕上げてください。

区民の地域福祉保健計画に関する代表者がそろっている懇談会での意見として確認したいということがあれば、重要なことなら皆さんに確認がいくかもしれないが、小さいことなら学識経験者として皆さんを代表して事務局と相談して進めていきたい。議事の2番目を「最終案について」終了したい。

◆今後のスケジュールについて事務局より願います。

事務局

◆ありがとうございました。また宿題をいただいたのでしっかり頑張りたい。役所の苦手なところは、区社協と地域ケアプラザに協力いただき、柔らかい表現で作りたい。議題4に入る前に、お礼を申し上げるのを忘れていた。本冊子の方に委員の皆様方からメッセージをいただきありがとうございました。140字という限られた文字数の中、なおかつお忙しい中、それぞれの団体の雰囲気わかる素敵なメッセージをありがとうございました。

3 今後のスケジュール（資料4）

（1）瀬谷区地域福祉保健計画シンポジウムについて

事務局

◆来年2月27日（土）午後1：30～4：30まで、瀬谷区第3期地域福祉保健計画のお披露目のシンポジウムを瀬谷公会堂にて開催する。基調講演は「これまでの10年を振り返って」「これからの5年に向けて暮らしやすいまちづくりの計画について」、また、関連講演として、主要な目標である「見守り合いの活動」についてお話しをいただく。

第3部では、12地区の地区別計画の紹介で、各12地区の代表にパネリストとして登壇いただく予定となっている。

第2部では、30分間の休憩を兼ね、ホワイエで地区別計画の紹介のパネル展示ということで各地区の方に説明を含めて協力いただく。プラス区内の福祉作業所による作品展示と販売を行っており、毎年好評をいただいている。

お忙しい中、誠に恐縮だが、本日出席の策定懇談会の皆様には会場前方に席を用意してシンポジウム冒頭に紹介させていただくので、予定を繰り合わせの上、出席していただきたくよろしくお願いします。

今回、最終会なので、共同事務局として携わったメンバーの紹介をしたい。地区別計画の社協の皆様（一拍手）、区民に最も身近な拠点として地域のニーズ把握等に力を注いでいただいた区内5つの地域ケアプラザの皆様（一拍手）、地区支援チームのリーダー、サブリーダーの皆様（一拍手）、最後に事務局として全体の取りまとめをさせていただいた福祉保健課の係長職員（一拍手）です。これまで、皆様のご協力のもと、策定を進めさせていただきました。本

当にありがとうございました。(一拍手)

4 区長よりあいさつ

◆懇談会の皆様、今回は2か年にわたり7回の会議を開催させていただきました。

毎回、重要で貴重なご意見をたくさん頂戴いたしましてありがとうございました。おかげさまで充実した内容の地域福祉保健計画ができたと感じております。ただ、本日何人かのメンバーの方からご指摘いただきましたように、見やすさと、読みやすさ、すっきり感に向かいもうひと頑張り事務局にはお願いしたいと思います。

また、2月にはシンポジウムを開催し、何より新年度から計画を推進していくのに、各地域で中核的な役割を担っていただいている皆様ですので、是非、この3期計画の推進にあたり引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。私からのお礼の言葉とさせていただきます。本当にどうもありがとうございました。

◆ありがとうございます。いつもご都合をつけて来ていただき恐縮です。もうメッセージは伝えてありますので、「ありがとうございました」でしめさせていただきます。

5 写真撮影

以 上

資
料

- 資料1-1 第6回瀬谷区地域福祉保健計画策定懇談会 議事要旨
- 資料1-2 第6回瀬谷区地域福祉保健計画策定懇談会 議事録
- 資料2 第2回地区別計画推進懇談会報告
- 資料3-1 第6回策定懇談会でいただいたご意見及び対応一覧
- 資料3-2 前回資料からの追加記載等について
- 資料4 27年度瀬谷区地域福祉保健計画推進シンポジウムチラシ
- 別冊 第3期瀬谷区地域福祉保健計画案最終案